令和８年度自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業「自傷・自殺未遂者支援のための地域実務者研修」
令和８年度北多摩西部保健医療圏市町村等支援研修「自殺対策研修」

参加無料

自傷・自殺未遂者支援と連携のための実践

～若者・子どもとその家族への関わり方～

昨年度好評をいただいた研修の第2弾を開催します！

自殺未遂は、自殺に関する最も重要なリスク因子であり、地域で関わる支援者が、当事者の状況に速やかに気付き、ニーズに応じた支援をしていくことが重要です。特に、近年の深刻な社会問題となっている若者や子どもの自傷・自殺については、本人だけでなく、その家族等の周囲の状況も併せてアセスメントし、関係機関と連携して本人と家族等の双方の支援を考えていく必要があります。

本研修では、若者・子どもとその家族等に焦点を当て、自傷・自殺未遂者や、孤独・孤立による精神的な不調を抱える方々の支援に向けて、対応力の向上と関係機関同士の連携、そして地域の支援者同士の「顔の見える関係づくり」を目指します。

日頃の支援に不安や悩みを感じている方、地域の支援者とのつながりを深めたい方、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。皆さまのご参加を心よりお待ちしています。

日時　令和8年12月11日（金）午後1時30分から5時まで

会場　独立行政法人国立病院機構 災害医療センター　4階　地域医療研修センター
（〒190-0014 東京都立川市緑町3256）

対象　自傷・自殺対策や若者・子ども、その家族等の支援にかかわる地域関係者
（医療機関、教育機関（中学、高校教員等）、行政機関（市・児童相談所等）、社会福祉協議会、NPO法人等）

講師・プログラム

講義1　自殺予防の基礎知識・スクリーニング演習

独立行政法人国立病院機構
災害医療センター
救命救急科 医長

臼杵 理人（うすき　まさと）医師



プロフィール

2002年宮崎医科大学卒業。九州大学病院、九州医療センター、厚生労働省、法務省等を経て、2022年より現職。近年は、救命救急センターを起点とした自傷・自殺企図者の支援、グリーフケアチームの立ち上げに尽力。立川市いのち支える自殺総合対策連絡協議会委員。

講義2　自傷・自殺企図のある若者とその家族への関わり方

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所　薬物依存研究部　部長
国立精神・神経医療研究センター病院
薬物依存症センター センター長

松本 俊彦（まつもと　としひこ）医師



プロフィール

1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院精神科、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所司法精神医学研究部、同研究所自殺予防総合対策センターなどを経て、2015年より現職。

グループワーク

架空事例を用いたグループワーク
（過量服薬や自傷行為のある若者・子どもと、複合的な課題を抱える家族の事例等）

申込

以下URLまたは二次元コードの申込フォームからお申し込みください。
※お申し込み多数の場合には調整を行うことがあります。あらかじめご了承ください。
https://logoform.jp/form/tmgform/1754306

<問合せ先>　東京都多摩立川保健所市町村連携課
辻・加藤・竹内　　電話 042-524-5171（代）

申込締切
11月13日（金曜日）

※本研修会は「こころの連携指導料（Ⅰ）」の算定に必須の要件研修会です。
研修を受講された方（精神科・心療内科を除く保険医療機関での業務に従事する医師）には　修了書を発行いたします。



独立行政法人国立病院機構災害医療センター・東京都多摩立川保健所・立川市共催